

## 【小 論 文】

### 【出題趣旨】

日本の文化的特性については、かねてから多くの論者がその検討を行っているが、本問で扱っている加藤周一は、戦後日本における知性の代表的存在として高く評価されている存在であり、特に日本文化の普遍性と特殊性及びその関係に対する考察は他に例をみない独創的な内容であるのみならず、文章の的確さ、論理展開の説得力などにおいても非常に示唆的である。本問は、こうした加藤周一の考え方を示す代表的な論考を素材として、日本文化が空間と時間という観点からどのような具体的特性を有しているかについて、歴史的視点と国際的知見を踏まえた考察を求めるものであり、日本と西欧との時間把握の相違に関する基本的な知識を確認し

(設問1)、日本文化における時間を表彰する概念としての「現在主義」、「現在集中主義」の意味を適切に読みとれているかを問い(設問2)、併せて日本における空間のとらえかたが国際関係への対処にどう影響して来たと考えられるかについて十分な説得力のある意見を求める(設問3)ものである。

本問は、制度や社会的慣行などの根底にある文化的特性とそれに対するさまざまな意見に対して適切な検討をなすうることが、正確な事実認識と論理的で説得力ある見解の提示という、法曹に求められる基本的な資質につながるという認識に依っている。

### 【採点基準】

採点に当たっては、論述としての統一性や整合性を前提として、

- ・円環的時間構造と直線的时间構造という、日本と西欧の社会における時間概念の特性について基本的知識が備わっているか否か
  - ・加藤周一が提示する現在主義、現在中心主義という概念の意義を正確に把握できているか
  - ・国際関係に対する日本外交の独特の対応の背景に、文化的特質としての空間把握があると考える加藤周一の見解についてその論理を十分に理解し、自分なりの評価をなしえているか
- などを評価の基準とする。

以上